

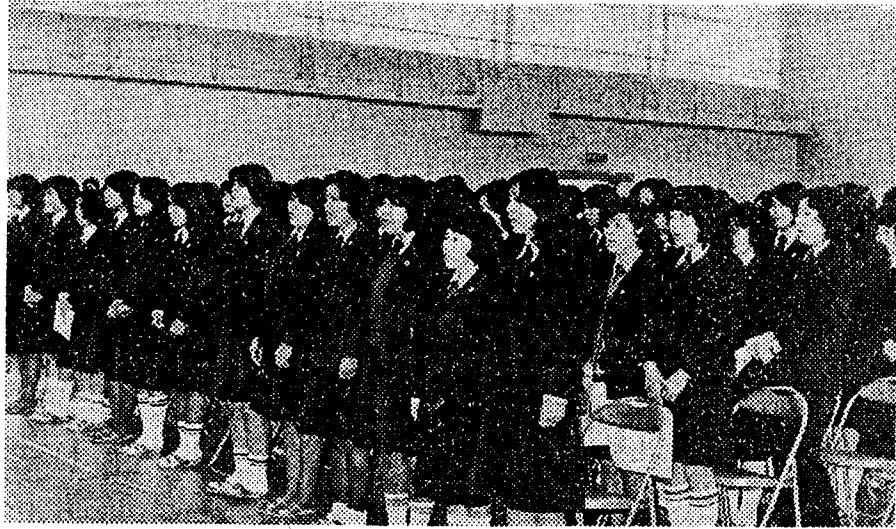
飯野高 定時制 に 第 一 回 卒 業 生

やっと四年目の春

女の園、働き学んだ126人

一日、県立高校の卒業式が県内一斉に行われるが、鈴鹿市三日月町の定時制・飯野高校(森下庸三校長)で第一回卒業生百二十

六人が集立つ。全員が働きながら学んだ蟹(けい)雪の功だけに喜びも大きい。



本番さながらの感激のうちに行われた飯野高校卒業式の予行演習
どの顔も晴ればれ

隔週二回に交互に生まれ、従って生徒たちは、午後の部の場合は午前四時三十分起床。朝、昼食時間を除き午前五時から午後一時三十分まで就業。終わって会社のバスで集団登校、午後二時四十分から六時十分まで勉強。午前の部は五時間前後だったという。

同校は紡績工場など二交代制の職場に働く青少年を対象に四十九年四月に設立。学校のシステムも午前、午後の二部制で修業年限四年間という県内唯一の特異性を持つ。生徒は鈴鹿、亀山両市と三重、安曇郡の紡績工場など七社の寮にいる県外からの従業員たちで男女共学制の建前だが現実には完全な女の園。

が遅れたため四十八年四月に近所の神戸高校に特別コースをつくって入学。校舎も本校から約三キロ離れた海岸部のプレハブ教室で授業。二年のうちに飯野高が新設されたが校舎がないため農村部の庄野小学校(同市庄野町)に間借り、三年生の四月からはじめて自分の学校舎で勉強できたという不遇な環境のうちに過ごした。

予算総額は二、九六九億七、一七六万円

30議案を追加上程

県議会 本会議 公共事業など積み増し

定例県議会は、十四日午後五時

三十分本会議を再開、今年度一般、特別、企業会計の最終補正予算、主任手当支給のための公立学校職員給与条例の一部改正、出納長の再任など人事案件二件の計三十議案を上程、田川知事の提案説明のあと、人事案件二件は原案通り同意した。残る二十八議案は十五日の本会議で質疑の後、各常任委員会に付託する。

この補正で、一般会計は四十九億五千五百九十九万三千円、特別会計は五千三百三十三万九千円それぞれ増額、企業会計は九億六千八百九十七万五千円の減額。差し引き四十億三千五百九十五万七千円の増額となり、五十二年度予算の総額は三会計合わせて二千九百

六十九億七千七百七十六万四千円となった。企業会計が減額補正されたのは、運ダムの選んで南勢水道事業が後年度回しになるなどしたため。

一般会計の補正では、国の景気浮揚策に対応するため公共事業に

県は、県立高校定時制課程と通信制課程の修学奨励金の貸与を受けた生徒が、四年間の課程を無事にすませ卒業した時は、奨励金の返還を免除することになり、十四日再開した定例県議会本会議に条例案を上程した。

定時制高校奨学金の返還を免除

県議会に条例案を上程

三億四百万円、既設高校の整備に十億七百万円、中央卸売市場(志都三雲村)の用地買収に十三億

四千万円、伊勢署の敷地買収に二億三千三百万円、精神薄弱児(者)総合福祉施設「いなば園」(久居市)の整備に一億三千五百

年度から、通信課程へは五十一年度から、それぞれ国の二分の一の補助を受けて実施している。国の方針で、規定の四年間でなまけず(留年せず)卒業した生徒には、奨励金の返還を免除することにしており、さる一日、定時制で初の卒業生が出たため、県も条例化する

万円などを盛り込んだ。

また、県の貯金ともいっべき財政調整基金に七億四千余万円を計上、同基金は総額で五十五億四千三百余万円となった。県財政当局は「県税の大幅減収などに備え、当面七十億円、できれば百億円の

奨励金は、四十九年度から月額三千万円、五十一年度から同五千万円に引き上げられた。定時制では四十九年度八十九人、五十年四十四人、五十一年度七十六人、五十二年七十六人、通信制では五十二年七十四人、五十二年五十五

大台を目指したい」としている。

一方、財源は県税収入十二億五百万円のほか、県債が三十七億五千八百九十万円に上り、大幅な借金頼みになっている。

九人が支給を受けた。

一方、同奨励金または県奨学金(大学進学奨学金)の貸与を受けた者が、死亡または不具廃疾となった時、または特にやむを得ないと認められる場合も、全部または一部の返還を免除することを、合わせて条例案に盛り込んでいる。



人口15万人 静かに超す

6月1日現在

鈴鹿市の人口が、実質的には既に十五万人を突破していることが市の住民基本台帳や



企業・事業所から市税務課へ通知されて来る特別徴収給与支払い報告書などで明らかになった。

↑ 実質十五万人人口のシンボルとなる鈴鹿市役所

『市制36歳』の慶事 本田技研など工場誘致実る

十六人)、四万四千三百四十六世帯。

一方、市内の企業・事業所などが、市に代わり同市内在住の従業員の給与から地方税を徴収して市に納付する仕組みになっている給与支払い報告書などによると、実質的に住居が同市内にありながら同市に転入届を出していない者が五月三十一日の時点で三百六十八人。台帳が示す六月一日付の計数は、五月三十一日閉庁時間時のもので、実質的には報告書との同時点とみなされる。従って、台帳と報告書の数を合わせると五月三十一日の時点で十四万九千九百八十八人。

これに基本台帳とは別に外国人登録関係の居住者が六百二十九人(ことしの三月末現在)。その後、減ったとしても六百二十人ほど下らない(同市民課の話)これらを総合すると、六月一日には十五万五百人は、とっくに超えている勘定。

しかし、県内では二位に変わらない。

ところで住民基本台帳一本にしばってみても、前年度は六月が前月対比で百七十人増、七月が三百二十人増。二〇二〇年度は、六月、七月ともに似たような増加数を示していることから社会的な大きな異

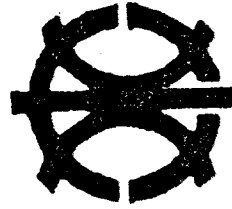
変がないかぎり七月中旬には十五万人に達する見込み。

昭和十七年十二月一日の市制施行以来三十六年ぶり。本田技研工業鈴鹿製作所と関連企業も大手の紡績、食品工業など三十年代を中心にした工場の進出が人口、工業生産ともに県内二位の鈴鹿市を生んだものといわれる。



明
わ
が
街
暗
わ
が
街

15万都市へ躍進



鈴鹿市県下で2番目

県下13市の人口

順位	市名	人口
①	四日市	250,823
②	鈴鹿	149,816
③	津	143,288
④	伊勢	112,090
⑤	松阪	105,276
⑥	名張	83,038
⑦	桑名	60,589
⑧	野居	39,152
⑨	上野	36,999
⑩	久寿	33,698
⑪	尾鷲	32,845
⑫	鳥羽	29,606
⑬	熊野	26,444

(53.7.31現在)

市の沿革を見ても、さる十七年に河笠郡神河、白子町と稲生、飯野、一宮など十二村を合併して、市制を施行。当時の人口は、五万二千三百七十一人だった。市内には、旧海軍工廠(じよし)を軍の施設があり、この広い用地が現在の同市の工業都市化へのきっかけとなった。

戦後、同市は(一)官用地を利用し、二十五年にいち早く工場建設を奨励策を設けて、企業誘致に力を入れ、翌年から大手繊維工場が相次いで進出。さらには三十五年に本田技研の進出で、同市が工業都市化する勢いを固めた。

それに伴って、人口も四十年に

増加。さる四十九年には、十三万人を突破し、県庁所在地の津市を抜き、四日市市に次ぐ県下二番目の人口に。そして今般は十五万人都市基盤整備を進める同市に比べて、今後どのような結果になって現れるか、大きな課題ともなりそう。

公共施設の整備が急務

鈴鹿市の住民基本台帳によると人口が、二千三百朝に十五万人に達した。太平洋戦争後、百九十五・八九平方の広大な面積を生かして、大手企業の工場誘致に力を入れ、高度経済成長の波にも乗り、人口が急速に



15万人目
の市民を記念して、野村市長から花束を贈る豊田幸代ちゃん(左)で抱かれている母親ひささん(鈴鹿市広瀬町、豊田家宅)

野村市長は「十五万人都市は達成したものの、市の歴史は浅く、都市基盤整備はこれから」と語っている。さらには「として総合基本計画を作成、これから公共下水運施設や、排水対策など取り組む、人口に合わせた都市の建設を自指した。また今般、二十万都市を目指すか、その目標が「二十万をき」と話している。

15万人目幸代ちゃん

一方、十五万人目の市民となったのは、同市広瀬町五三三、自動車学校豊田敏生(ひさ)の長女幸代ちゃん。さる十日に誕生したばかりで、この日出産届けが出された。

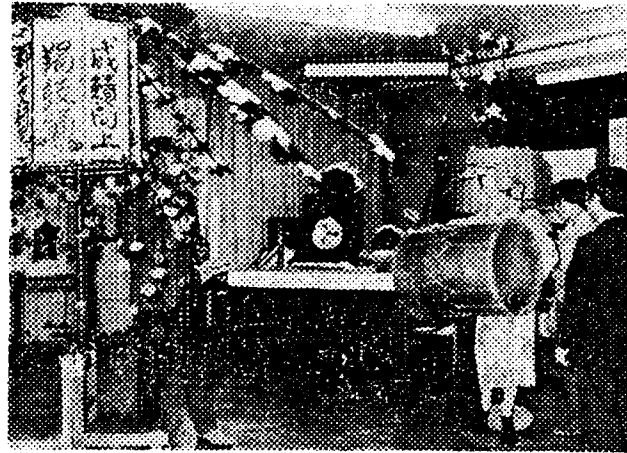
市は十五万人目となる市民のため、記念の賞状を用意してあり、同日午後野村市長が豊田家宅を訪れ、幸代ちゃん(ひさ)に手渡した。

は十万人、五十年には十四万人増加の一途をたどった。しかし同市は多くの町村が合併してできた都市だけに、中心となる市街地をもたないで発展した。このため、都市基盤整備の難しさもあって、人口増に伴って公共施設の建設など、他都市に比べ立ち遅れが目立っているのも事実。

十五万都市を達成したのを機に

郷土芸能の研究発表

神戸高 庄野町のシシ頭展示など
文化祭



神戸高校文化祭で郷土史研究クラブ
が研究した伝統芸能発表コーナー

鈴鹿市神戸本多町、県立神戸高
校(後藤裕文校長)の文化祭は、
二日から始まり各教室に生徒たち
の研究発表コーナーも設けられて
いるが、その中で郷土史研究クラ
ブ(馬場和彦部長)が、同市内の
伝統芸能を取り上げて発表し、人
気を集めている。

最近になって、各地で郷土の伝
統芸能の見直しが盛んになってい
る。同クラブでは、ことし春から
市内の伝統芸能を研究テーマにし

て調査をつづけ、その成果を文
化祭が開かれたのを機に披露し
た。

会場には、同市広瀬町に伝わる
かんこ踊りに使われる生徒たち自
作の「大あんどん」を中央に飾
り、踊り手の本物の衣装や手作り
の花がさをマネキン人形に着せた
り、同市庄野町のシシ舞いに使わ
れるシシ頭を展示。同市長太地区
の天王祭のシシ舞いのお囃子(は
やし)など録音したテープを会場

に流している。

また、各伝統芸能の歴史や、同
市内の年中行事を表にまとめた
り、祭りの光景を写した写真など
展示して、わかりやすく紹介して
いる。この文化祭は三日間開かれ
日は一般市民にも公開される。

郷土のしおり

史跡

70

鈴鹿市・神戸城跡

鈴鹿市本多町の神戸公園内に天守閣跡を残す神戸城。築かれたのは、まさに群雄割拠の時代であった。織田信長が天下統一の足場を築き、それを豊臣秀吉が受け継ぎ、さらに徳川家康へと続く激動の時代の中で、歴代の神戸城主たちもその渦中に見込まれ、流れ動いていった。

・友盛の時。永祿三年（一五六〇年）に信長が桶狭間の戦いで孝の手による。今川義元を破り、京都への進撃をねらっている時であった。岐阜に居城を構えた信長が入洛を実現させるには、側面の伊勢を手中にする必要があった。

神戸城は信孝が去った後、神戸氏の家臣の小島兵部や林与五郎が城主となる。しかし天正十二年（一五八四年）以降は秀吉の勢力下となり、生駒親正、羽柴下総介、水野忠重と相次いで城主が代わる。そして藩政時代を迎え、一柳監物直盛と石川氏三代の城主の時期を過ごす。享保十七年（一七三二年）に河内国（大阪府）から本多忠統を城主に迎えた時、石高は一萬五千石だった。

信孝が築いた天守閣が解体された後、城といっても各城主は

青銅の鯨市が保存 大手門、隅やぐらは移築

神戸城が最初に築かれたのは天文二十年（一五五一年）。龜山城主園氏五家の一つ、神戸氏四代目の具盛が鈴鹿市沢地区にあった沢城から移転、築城した。城といっても土塁を盛った館程度で、小高い丘を利用した平山城だった。神戸氏はこの城を本拠にして東は岸岡山（現在の同市岸岡町）に岸岡城、北は高岡山（同市高岡町）に高岡城を築き、同地方に勢力を固めた。とはいえ、またこの時代には一豪族の城としての存在でしかなかった。

永祿十年（一五六七年）に信長は、数万の兵を率いて桑名から神戸へと伊勢侵略に出た。が、神戸氏の家臣・山路弾正の守る高岡城は守りが固く、信長はいつたん岐阜へ兵を引き揚げた。

だが、この天守閣も雄姿を見せたのはわずかに十五年。天正十年（一五八三年）に信長が本能寺で明智光秀に殺され、信孝も神戸城から岐阜城に移った後、十三年目の文祿四年（一五九五）に秀吉によって解体され、桑名城に移された。

陣屋住まいとして変わらなかつた。忠統は入城後十四年目に幕府から築城命令を受け、延享三年（一七四六年）に着手。城郭の規模を拡大し、東西五百尺、南北四百尺にわたる外堀に囲まれた城内に、二重やぐら、隅やぐらを設けた。しかし、天守閣は築かなかつた。二年後に完成。二重やぐらの棟には高さ一・七尺の青銅製の鯨（しゃち）が置かれ、参宮街道を通る野町の顕正寺に移され、保存されているほか、一重隅やぐら



民に憩いの場を提供しているが、当時の面影を残すのは天守閣を築いた石がきだけ。ただ、高麗門型式のかわらに立葵の紋が入った大手門が四日市市日野町の顕正寺に移され、保存されているほか、一重隅やぐらが鈴鹿市玉原町の蓮花寺に移され

て鐘堂になっており、当時をしのぶことができる。二重やぐらを飾ったしゃちは鈴鹿市が保存。城跡そのものは昭和十二年、今天守閣跡の石がきだけを残す鈴鹿市の神戸城跡

戦国の世で、神戸氏が群雄割拠のトップグループにつながったのは、具盛から三代後の城主

信孝、五重の天守閣

この城が近代の城郭らしい形

「郷土のしおり」についての意見、ご希望がありましたら、〒514津市丸之内31番3号・中日会館五階、中日新聞三重総局までお知らせ下さい。

年、県史跡に指定された。

